

文学研究科

GUIDE BOOK 2025



**授業料免除
もある
新奨学金制度
はじまりました!**

国文学専攻／中国学専攻

[博士前期・後期]

文学研究科

〔国文学専攻／中国学専攻〕

二松学舎大学大学院文学研究科は、これまで数多くの優秀な人材を学界に、教育界に輩出してきました。

そのよき伝統を継承し、学問の世界だけではなく、社会の多様な分野で活躍できる人材の育成を図るため、意欲的な社会人、留学生のためにも、広く門戸を開放しています。

幅広い学問分野を網羅した充実のカリキュラム、貴重な文献を所蔵する図書館をはじめとした研究環境、優秀な教授陣による密度の濃い研究指導は、二松学舎147年の伝統によって支えられています。こうした教育・研究体制の下、二松学舎大学大学院は必ずや日本の大学院の最高峰を究めるものと自負しています。

研究科長からのメッセージ

理想的な研究環境の中で、研究者、人間としての成長を。

大学院 文学研究科長
山口 直孝 教授



漢学塾として出発した二松学舎は、漢学に根ざした豊かな学問的な伝統を持っています。漢学は、蓄積された知を踏まえて現実をとらえ、広い視野で問題解決を図る合理的な思考です。総合的な人間学であるその精神は、「東洋学」として建学の精神として掲げられ、現在に受け継がれています。

本文学研究科は、国文学専攻、中国学専攻の二専攻で構成されており、いずれも日本有数の講座数と指導教員数とを誇ります。国文学専攻においては、古代から現在に至る文学および日本語について、中国学専攻においては、古代から現在に至る中国の思想、文学、言語について、研究することができます。比較文学、メディア論、芸能文化、国語教育も含んだ講座が開かれており、多角的な知を身につけることができます。

博士課程前期では修士論文の制作を通じて、独自性のある研究成果を出すことに取り組みます。また、所定の単位を修めることで中学校、高等学校の専修免許状(国語、書道、中国語〔中国学専攻のみ〕)を取得することができます。博士後期課程では、博士論文の完成を目指して、より高度な研究成果を世に問うていくことになります。

近年では、海外の大学院との提携も積極的に進めています。国際色豊かであり、立地も含めて理想的な研究環境を備えた本大学院で自己を磨き、研究者として、また一個の人間として成長してもらえればと思います。

国文学専攻

国文学専攻をめざす人へ

大学生として日本文学や日本語、日本文化、映像・演劇等を学ぶ中で、研究することの厳しさと楽しさに気づき、関心のあるテーマについてさらに深く考えてみたくなった人、自分のめざす国語教育のためにもっと学問的な研鑽を積み重ねたいと思っている人、あるいは、これまで異なる分野を学んできた結果、その知見を生かしながら日本の文学や言語、文化等を捉え直したくなった人、進学の動機はさまざまでも、国文学専攻で学問に真摯に取り組もうとする皆さんを、私たちは待っています。

国文学専攻主任 五井 信 教授



中国学専攻

中国学専攻が用意する2種類の学位

中国学専攻は博士前期課程と博士後期課程のそれぞれに2種類の学位を用意しているのが特徴です。中国の文学・思想・言語・芸術等を対象とする伝統的な中国古典学を修めれば修士(文学)または博士(文学)を、日本で受容された中国学を日本人が発展させた日本漢学を修めれば修士(日本漢学)または博士(日本漢学)を取得できます。特に、日本漢学の学位はこの分野での世界的研究拠点を目指す本学ならではのものです。

中国学専攻主任 伊藤 晋太郎 教授



二松学舎大学大学院 給付奨学金について

二松学舎大学大学院では、学業成績・人物ともに優秀な学生に対し、高度な研究に専心できる環境づくりの支援を行うことを目的とし、2024年度より奨学金制度を導入しました。

博士前期課程

年度末の成績を基に優秀な成績を収めた者、最大2名(各専攻)については、当該年度の授業料半額相当額が免除されます。毎年度末の資格継続審査で条件を満たすことで、次年度も減免措置が継続され、最大2年間減免措置が適用されます。

博士後期課程

合格者のうち成績優秀にして入学する者、最大2名(各専攻)を奨学生選抜入試における奨学金合格者(以下「奨学金合格者」とする)として、合格発表時に通知します。奨学金合格者になると、年間授業料の納入が免除されます。さらに、毎年度末の資格継続審査で条件を満たすことで次年度も免除措置が継続され、最大3年間免除措置が適用されます。

(注) 奨学生選抜入試では、奨学金合格者のほか、通常合格枠もあります。

奨学金合格者の初年度学費等納入金(博士後期課程)

	他大学院修士(前期)課程修了者	本学大学院前期課程修了者
入学金	250,000円	本学大学院前期課程修了者は無料
授業料	奨学金合格者は授業料全額免除	奨学金合格者は授業料全額免除
施設費	70,000円	30,000円
代理徴収金	14,620円	9,620円
合計	334,620円	39,620円

〔奨学金合格者の声〕



欧阳 文彬さん 中国学専攻(博士後期課程)

小さい頃から古典文学、特に『三国志』が好きだった私は、中国の大学で日本語学科を卒業後、日本に留学することを決めました。日本語学校の先生に漢学で名高い二松学舎を勧められ、その教育システムと研究環境に惹かれました。また、二松学舎のカリキュラムが私の研究興味に合致しており、優れた指導者が揃っていることも、進学先に決めた理由の一つです。

博士前期課程の研究生活は、教員や先輩たちから丁寧な指導を受け、充実した研究生活を送ることができました。さらに、2024年度入試より、大学院生の経済的負担軽減および学術研究に専心できる機会を提供することを目的とした奨学生選抜入試が始まり、博士後期課程への進学を決意しました。奨学生選抜入試の受験対策として、古典文学だけでなく、思想や日本漢学の分野、特に漢文訓読と専門用語の解釈なども勉強しました。その結果、見事奨学金合格者に選ばれ、授業料が全額免除されました。

博士後期課程において、現在私は『三国志演義』と各版本の研究をしています。『三国志演義』は中日で広く知られている古典文学作品です。日本には、いくつかの孤本が残っており、これらは私の研究に大きな助けとなるでしょう。二松学舎で新たな知見を得ることは私の学術キャリアの重要な一歩となると期待しています。

私費外国人留学生対象 授業料減免制度について

本学では、勤勉な留学生の経済的負担を軽減することを目的とした「私費外国人留学生 授業料減免制度」があります。減免額は最大で50%(授業料)となります。

1. 対象について

本学大学院の正規課程に在学する私費外国人留学生(在留資格「留学」)で、出席状況、学業成績、家計状況等、定められた基準を満たす者。

2. 減免する額について

- ① 新入生の場合 → 当該年度授業料の30%
 - ② 2年次生以上の場合 → 当該年度授業料の30%~50%
- 本制度の詳細は本学HP国際交流センターサイトよりご確認ください。

二松学舎大学 留学生ハンドブック で検索

修了生インタビュー



石 高原さん
博士後期課程(中国学専攻)
2022年度修了

Q

日本に留学しようと思ったきっかけ、また二松学舎大学大学院に進学を決めた理由を教えてください。

A

元々、中国の河南大学で日本語を専攻しており、日本に関する文化、文学に深い興味を持っていました。本学の王宝平先生の推薦で二松学舎を知り、牧角悦子先生の研究分野である「中国古代文学の日本受容」について興味を持ち、進学を決意しました。

Q

研究テーマと具体的な研究内容について教えてください。

A

研究テーマ：「近代日中における『紅樓夢』評論の成立——小説観の変遷を中心に——」
研究内容：近代日中『紅樓夢』評論の始まりと考えられる王国維の「紅樓夢評論」と森槐南の「紅樓夢論評」を主な対象として、近代小説認識の変遷という視点から、近代日中における『紅樓夢』評論の成立過程を考察し、漢文学の伝統を共有する日中両国における中国古典小説に対する評価を、近代小説観の成立という面から捉えてみました。

Q

在学中、受給していた奨学金や減免制度などがあれば、教えてください。

A

二松学舎大学には留学生のための授業料減免制度があり、私もこの制度を利用し、授業料の免除を受けていました。多くの留学生がこの制度を利用しています。

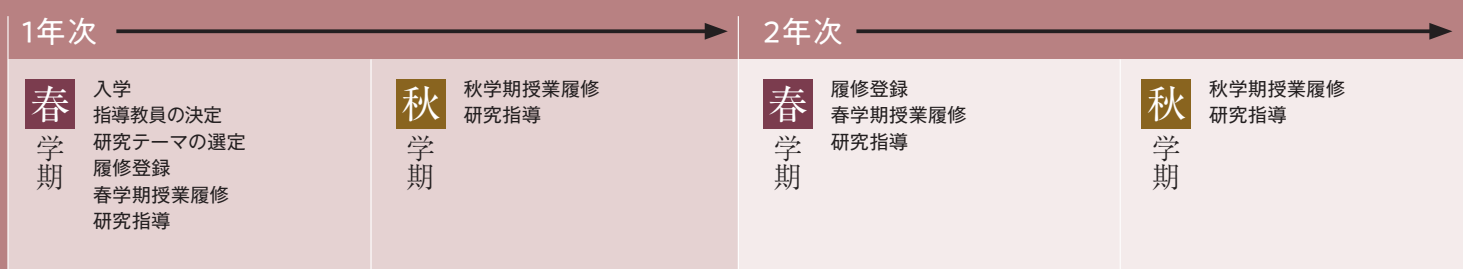
Q

奨学金以外で、大学から受けていたサポートなどがあれば、教えてください。

A

2021年4月～2023年3月 非常勤助手として、共同研究室の管理及び専攻に関する教育補助及び事務などを行い、給与を支給されていました。

入学から博士学位取得までのプロセス



※上記は、石 高原さんの入学から博士学位取得までのプロセスとなります。学生によってプロセスは異なります。

専修免許について

中学校または高等学校教諭一種免許状を有している学生で、本大学院文学研究科(博士前期課程)において、有する免許状と同校種・同教科について認定を受けている教職課程の所定の科目の単位を修得し、修士の学位を取得した学生は、専修免許状を取得することができます。

取得できる教員免許状

研究科・専攻		中学校教諭専修免許状		高等学校教諭専修免許状		
		国語	中国語	国語	書道	中国語
文学研究科 (博士前期課程)	国文学専攻	●		●	●	
	中国学専攻	●	●	●	●	●

※専修免許状取得のためには取得する専修免許状と同校種・同教科の一種免許状を有していることが必要です。
※専修免許状取得のために必要となる科目は、免許状の校種・教科と所属する専攻によって異なります。

研究サポート体制について

1. 研究倫理教育

研究倫理教育および論文作成のための導入教育を、講義形式で実施しています。研究を進めるにあたって知っておくべきこと、守るべきルール、論文を書く時の作法などについて講義形式で分かりやすく説明します。

2. 日本語論文添削指導

留学生を対象に、日本語論文の個別添削指導を行っています。留学生が日本語で書いた論文やレポートなどを、予約制で個別に添削指導します。授業期間中は毎月複数回の機会を設けます。

3. 研究会形式での研究指導(中国学専攻のみ)

中国学専攻の全教員・全院生が原則参加する研究会形式の研究指導です。毎回担当者を決めて先行研究の紹介や批判をしたり、現在取り組み中のテーマの中間報告などをおこないます。ほかの学生の発表を聞いて自分の研究のヒントを得ることができます。

Q 二松学舎大学大学院の魅力や二松学舎大学大学院で学んでよかったことなどについて、教えてください。

A 東洋文学の研究を特徴とする二松学舎では、様々な学会や研究会が多く開催されています。キャンパスでは、熱心に本を読んでいる学生達の姿がよく見られます。私も在学中は、このような落ち着いた雰囲気になれながら、教員や先輩から薫陶を受け、文学の美に感動していました。

Q 現在の就職先を選んだ理由と業務内容について、教えてください。

A 現在、河南大学の外語学院で日本語講師として勤務しています。院生達の担任を兼任しながら、日中翻訳課程を担当しています。私は河南大学で修士課程修了までの7年間、学生生活を送りました。母校への強い愛校心により、現在の就職先を選びました。二松学舎で得た専門知識を、日本語専攻の学生に教授できればと思っています。

Q 二松学舎大学大学院で身についた専門性やスキルが、現在の業務にどう活かされていますか？

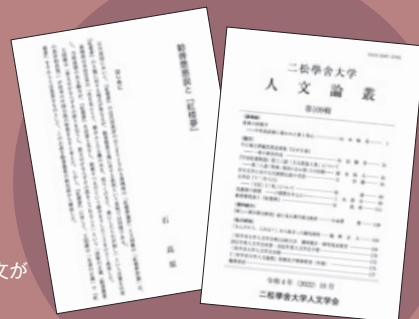
A 二松学舎で、漢文読解や日本語表現に関する専門知識を学ぶことができました。日中翻訳の授業の際、日本語と中国語の違いについて、実例を用いながら学生達に具体的に説明してあげることに役立っています。

Q 今後どのようなキャリアを築いていきたいですか？

A 今後、博士論文の研究主題をもとに、「明治時代における漢学者の中国文学研究」というテーマに取り組んでいきたいです。それと同時に、自身の研究成果を学生の指導に活用していきたいです。

Q 大学院進学を目指す受験生に、メッセージをお願いします。

A 文学は美しい。文学を学べば学ぶほど、その魅力に引き込まれていきます。二松学舎では、優れた先生方に支えられながら、院生同士切磋琢磨し、充実した研究生活を送ることができることでしょう。



石 高原さんの学術論文が掲載された機関誌

3年次

春
学期
履修登録
春学期授業履修
研究指導
学会発表①

秋
学期
秋学期授業履修
研究指導
学術論文掲載①
学術論文掲載②

春
学期
履修登録
春学期授業履修
研究指導
学会発表②

秋
学期
秋学期授業履修
研究指導
学術論文掲載③
博士学位請求論文提出
審査及び試験
学位授与
修了

修了後
博士論文公表

〔専修免許の取得を目指している学生からのメッセージ〕



太刀川 冴良さん(教職課程履修中)
国文学専攻(博士前期課程)

私が専修免許状の取得を目指そうと思ったのは、大学院への進学がきっかけでした。せっかく進学が決まったのなら、と両親からの勧めです。大学院では、漫画『風の谷のナウシカ』について分析をおこなっています。大学院への進学直後は進路も明確ではなかったので、「分析の練習」に、という気持ちで専修免許状の取得を決めました。

私は学部時代、教諭一種免許状を取得していなかったので、現在、学部の科目等履修生として、足りない科目を履修しています。学部の一年次生に混ざりながらの受講は新鮮ではありますが、研究との両立に苦労することが多かった。もちろん、学部における理論的・原理的な講義や古典に関する課題は、専門から離れていても参考になる部分も多く、研究においても多角的になれたと思います。

教職課程での学びは、教職に限らず、生きていく上での他者との関わりについて考えさせられます。慣れないことだらけでしたが、チャレンジする意義はあると感じています。

学生メッセージ

国文学専攻

関 祐紀さん

国文学専攻(博士前期課程)



日本近代文学を専攻している私は、特に太宰治作品における表象とフェミニズム理論の相関を研究しています。いずれも、私が文学研究に関心を抱くきっかけとなった作家と理論です。学部生から引き続き、九段下という便利かつ緑が豊かな素敵なおところで、学友とともに研究に励む日々を送っています。先生方もよく目をかけてくださり、心穏やかに研究に取り組める健全な環境は本学の大きな魅力であり、進学先を決定する際に迷うことはありませんでした。

また、研究と並行して国語科の専修免許状の修得も目指しています。当面は、学内誌に論文を投稿することを目標にしており、在学期間を有意義なものにできるよう努める所存です。

宋 迪さん

国文学専攻(博士後期課程)



私は、第二次世界大戦下から戦後までの太宰治の作品に表象された男女関係の力学を中心に研究を行っています。

大学時代から日本文学に触れていた私は、日本文学への関心が高まっていくなりました。その後、日本に留学することを決めると同時に、日本文学を学ぶことにしました。来日し、二松学舎大学に入学しました。最初先生方やほかの院生たちと一緒に文学の話題になった時のワクワクした気持ちがいっまでも忘れられません。

私にとっての大学院は、授業で勉強する時間を重ねるにつれて、様々な知識や分析力が身につく、いわば自分の成長を楽しめるところです。

中国学専攻

加藤 淳さん

中国学専攻(博士前期課程)



私は日本語教育を仕事としており、多くの外国人留学生の方々と関わってきました。特に東アジアからの留学生が多いのですが、彼ら彼女らと接しているうちに、その背景にある社会や文化を私も学んでみたいと考えたようになったのが大学院進学へのきっかけです。

大学院では北宋時代の絵画や画論について研究しています。絵画をひとつの事例として、近隣諸国と日本との間での、ものの見方の違いや文化の交流について理解を深められたらと考えています。また、専門分野を深めるだけでなく、古典を中心に文学、思想、文化など、多岐にわたる分野の専門知に触れることもできています。

幅広く、かつ奥深い中国学という分野での学びや研究活動を通して、私なりの異文化理解や文化交流の形を模索していきたいという思いで日々の研究に取り組んでいます。

陳 鵬飛さん

中国学専攻(博士後期課程)



私は大学時代に六朝志怪に惹かれ、中国側の天人観研究のみならず、日本側の鬼神研究に強い関心を持ちました。大学を卒業した後、より多様な視点から作品を解説し、日中間における文学の見方や研究方法の違いについて理解を深めるために、日本への留学を決めました。現在、私は、『搜神記』を中心に、魏晋時代における災異思想と社会風俗について研究しています。

中国学専攻では、中国の文学や思想を中心に、より深く専門的な知識を身に着けるだけでなく、鋭い問題意識と創造的な視点を育むことができます。また、諸先生や先輩方から研究上の助言や丁寧な指導を受け、楽しく研究活動を推進することと、新たな発見や学びにより充実感を得ることができます。

社会で活躍する修了生



2020年度
博士後期課程修了
鈴木 和夫さん

二松学舎大学 非常勤講師

学部でのゼミ時代から説話文学に興味を持ち、大学院でも説話集、特に『宇治拾遺物語』や『古事談』といった中世説話集について研究してきました。説話と一口に言っても、それぞれの話の内容は、時に和歌や音楽のいわゆる詩歌管絃、また時には仏教などの宗教、さらには中国やインドといった異国の説話など、多岐にわたっています。ですから、それらを研究するためには、おのずと様々な知識や観点が必要で、本学に上代から現代までの文学や語学などを専門とする先生方がいらしたことは大変心強いことでした。また本学は、立地にも恵まれ、九段坂を下れ

ば神保町、すぐ近くには国立国会図書館や宮内庁書陵部など、文献調査などに事欠きません。そうした優れた研究環境のもと、文学研究に没頭できることは、大学院を選ぶ際の大きな魅力でもありました。

現在は、本学非常勤講師としてお世話になり、みずからがこの二松学舎で学んできたことを伝え、少しでも文学研究の楽しさやおもしろさを感じてもらえるように努めています。また、本学の博士前期課程で国語科の専修免許を取得し、より専門的な知識を得られたことは、高等学校でも非常勤講師をしている私にとって大いに役立っています。



2017年度
博士後期課程修了
楊 爽さん

河南農業大学(中国・河南) 日本語科 講師

日本の漢文学に興味をもっているため、漢文学の研究で知られる二松学舎大学を選び、博士後期課程に入学しました。日本の漢文学は「国文学」にカテゴライズされますが、ただ日本のことだけを集中して研究すればよい、というわけではありません。そのため、漢文学(「国文学」)以外にも、「中国学」の課程も充実した二松学舎大学での三年間は、研究へのたしかな基礎を与えてくれました。

在学中は、二松学舎大学が主催する様々な学会やシンポジウムで発表することができ、研究の視野を広げることができました。また、学内に設置された東アジア学術総合研究所での勤務や、国際学会での発表や運営等にも携わ

り、経験を積むことができました。

さらに、国際交流を重視する二松学舎大学には、国際交流センターという留学生のための支援機構があり、留学生のための交流会やイベント等、様々な活動が行なわれています。そのこともあずかって、研究以外の面もふくめた、多彩で充実した留学生生活を送ることができました。

現在、私は中国の河南省にある河南農業大学で日本語教師をしています。よく、学生たちには二松学舎大学での留学生活について、感激を込めて伝えています。先生たちの学問に対する真摯さや情熱に深い感銘を受けた私にとって、二松学舎大学は、私を研究の道に導いた存在と言えるのです。



2010年度
博士後期課程所定
単位取得満期退学
大貫 正皓さん

浦和明の星女子中学高等学校 教諭 兼 二松学舎大学 非常勤講師

大学院への進学は、大学入学以前から興味があった平安時代の作品研究に、一層深く取り組みたいとの思いから決断しました。

私の行っている研究は、平安中期における摂関家の文芸(『一条摂政御集』、『本院侍従集』などの和歌文学や『蜻蛉日記』)を、従来とは異なる視点から体系的に把握すること、さらにはそれら諸作品と『枕草子』、『源氏物語』といった次代を代表する文芸との、密接な繋がりを見出だすことです。そして、この研究は大学院時代の取り組みに基づいています。緻密な検証方法や実態を把握し体系化する方法を、講義・演習・研

究指導を通し、学ばせてもらったことが、今の研究に確実に生きています。

現在は私立中高一貫校での指導に携わり、また本学非常勤講師も担当させていただいています。研究を通し明らかにし得た、文芸、文化の実態を、学界に、そして学生や生徒の皆さんに伝えさせていただく意義を実感しています。

また大学院では、対象の実態を、的確に魅力的に教授する方法も、丁寧にご指導いただきました。研究にとって欠かせない教育力を培え、専修免許状を取得できたことは、私にとって大きな財産となっています。



2009年度
博士後期課程修了
鍋島 亜朱華さん

清華大学(台湾) 中国文学系 副教授

国立台湾大学在学中に陽明学の研究に興味をもった私にとって、当時世界で唯一の陽明学研究所^(注)があった二松学舎大学大学院は第一志望でした。文学、哲学と分けずに「中国学」という領域で豊富な講義、演習を受けることが出来たことは、私の視野を広げ、専門知識を深めてくれました。博士前期課程、後期課程を通して学んだ一番大事なことは、「学問の楽しみ」ということです。

現在私は台湾の国立清華大学中国文学系で主に中国思想と日本

漢学を担当しています。二松学舎で身につけた専門知識が役に立っているのは勿論ですが、身をもって感じた先生方や先輩方の学問に対する情熱、真摯さがその後の自分の原動力となりました。

中国学、日本漢学の両方を学ぶことは、自国の文化を考え、先学の思索を理解するのにとても大切なことだと、教える立場になって改めて感じます。二松学舎でこれらの「原典」をしっかりと学べたことが、大事な糧となって今の私を支えています。

(注)陽明学研究所の事業は現在、東アジア学術総合研究所陽明学研究センターに引き継がれています。

教育環境

都心の九段キャンパスで学ぶ

東京都心、そのさらに中心に位置する千代田区三番町。
都心にありながら、春には桜、秋には銀杏並木の美しい
落ち着いた佇まいを見せる街です。
この文教施設や商業ビルが立ち並ぶ
都心の一等地に九段キャンパスはあります。
歴史の息吹と文化の薫りを存分に、満喫してください。

さまざまな履修形態が可能

文学研究科における教育は、指導教員による「研究指導」と授業科目の履修によって行われます。授業科目の選択・履修は、各自の研究分野に必要な科目を、指導教員の指導を受けつつ、行います。授業は2～5時限の昼間、6・7時限の夜間に開講しており、学生は昼間・夜間の別なくいずれも履修できます。夜間に受講する社会人学生のために、各分野の科目を開講しています(昼夜開講制)。このほか、長期休暇期間に集中講義を開講する場合があります。

※土曜日の開講は年度によって異なります。

大学院生用 施設・設備



図書館 <1号館>

九段キャンパスの図書館では約20万冊の図書資料を収蔵。柏キャンパス(千葉県)の図書館は約14万冊を収蔵しています。



国文学／ 中国文学(中国学) 共同研究室・ 大学院生控室 <1号館>



辞書類や基礎的資料、映像メディア等の視覚資料をそろえ、大学院生が便利に利用できる環境を整えています。



入学から修了までの流れ



九段キャンパスの周辺環境



日本漢学研究の国際的拠点

二松学舎大学は2004年度に文部科学省21世紀COEプログラム「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」に採択され、その後も「日本漢文教育研究プログラム」を経て、2015年度には文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業として「近代日本の「知」の形成と漢学」プロジェクトが採択されました。これは、日本学と中国学、近代と古典を結ぶ新たな学びを展開していくとする本学独自の学術計画が高い評価を得たことを意味します。

本大学院中国学専攻の「日本漢学講座」科目群ではその成果の一端に触れることができ、また学生は、日々深化する研究の担い手ともなうことができます。

なお、本学は日本漢文研究の国際的拠点となるべく、国内はもとより世界も視野に入れた活動を行っており、海外研究拠点を世界各地に設け、研究員の派遣・受け入れや国際シンポジウムの開催を行っています。

取得できる学位が広がる

二松学舎大学は、2015年度から2019年度までの5年間にわたって、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択され、「近代日本の「知」の形成と漢学」という研究プロジェクトを推進しました。このことを受けて、二松学舎大学大学院文学研究科中国学専攻は「日本漢学」の拠点として、新たな学位を設けました。

課程	専攻	取得できる学位
博士前期課程	国文学専攻	修士（文学）
	中国学専攻	修士（文学）又は修士（日本漢学）
博士後期課程	国文学専攻	博士（文学）
	中国学専攻	博士（文学）又は博士（日本漢学）

2つの国で2つの大学院の学位が取得可能（博士前期課程のみ）

2018年4月から、本学協定校の1つである中国・浙江工商大学東方語言・哲学学院(日本の大学院に相当)とのダブル・ディグリー・プログラムを開始しました。

ダブル・ディグリーとは、本学文学研究科と中国・浙江工商大学東方語言・哲学学院との間で、教育課程・履修内容・単位互換等について協定を締結し、それぞれの大学院で学ぶことで、2つの大学院の修士学位が取得可能な制度です(中国・浙江工商大学東方語言・哲学学院への留学が必須となります)。

中国・浙江工商大学東方語言・哲学学院にサテライト教室が設けられており、日本と中国(留学)の両大学院の国で学ぶことにより、2つの学位が取得可能となっています。

海外協定校との大学院生交流プログラム

本大学院は以下の大学と学生交流プログラム協定を締結しています。北京大学(中国)、浙江工商大学(中国)、中国文化大学(台湾)、成均館大学校(韓国)、リール大学(フランス)、ボルドー・モンテニュ大学(フランス)、カ・フォスカリ大学(イタリア)、エトヴェシュ・ロラーンド大学(ハンガリー)。



北京大学(中国)



浙江工商大学(中国)



中国文化大学(台湾)



成均館大学校(韓国)



リール大学(フランス)



ボルドー・モンテニュ大学(フランス)



カ・フォスカリ大学(イタリア)



エトヴェシュ・ロラーンド大学(ハンガリー)

国文学専攻

山口 直孝 教授／研究科長

やまぐち ただよし

担当科目 近代文学演習ⅢA・B

①関西学院大学大学院文学研究科博士課程後期課程日本文学専攻単位取得満期退学、博士(文学)(関西学院大学) ②日本近代の小説 ③(1)「私小説」概念の近松秋江・志賀直哉における受容と創作の展開の分析、(2)大西巨人を中心とする文学芸術運動、(3)横溝正史文芸の展開相の把握

五井 信 教授／専攻主任

ごい まこと

担当科目 文芸理論演習ⅡA・B

①立教大学大学院文学研究科博士課程後期(日本文学専攻)単位取得満期退学 ②日本近代文学、文学理論、カルチュラル・スタディーズ ③田山花袋を中心にした明治後期の<日本>表象に関する研究。小説だけではなく紀行文や従軍記、あるいは英語の旅行ガイドブックといったテキストを対象にしている。

荒井 裕樹 教授

あらい ゆうき

担当科目 文芸理論講義ⅠA・B

①東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本語日本文学専門分野修了、博士(文学) ②日本近現代文学、障害者文化論 ③マイノリティ文学、マイノリティの自己表現活動、戦後の障害者運動史

江藤 茂博 教授

えとう しげひろ

担当科目 近代文学講義ⅠA・B

①立教大学大学院文学研究科博士課程後期満期退学、博士(文学)(二松学舎大学) ②文芸・映像・メディア文化論 ③(1)メディア変換における物語構造の変容に関する研究、(2)近代現代日本の文芸・思想及び表現文化

小山 聡子 教授

こやま さとこ

担当科目 日本文学講義ⅠA・B

①筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科史学専攻修了、博士(学術)(筑波大学) ②日本中世宗教史 ③(1)古代・中世社会でモノノケのように捉えられ、いかなる対処がなされたのか、検討していく。(2)親鸞やその家族、門弟の信仰を理想化するのではなく、歴史の中に位置づけて論じることにより、彼らが生きていた社会について明確にいく。

迫田 幸栄 教授

さこだ さちえ

担当科目 日本語学講義ⅣA・B／日本語学講義A・B

①大東文化大学大学院文学研究科日本文学専攻博士課程後期単位取得満期退学、博士(文学)(別府大学) ②日本語学(形態論・構文論)・日本語教育学(教材分析) ③(1)言語コーパスに基づく日本語の記述と分析、形態論、構文論と連語論 (2)日本語(国語)教育の教材(教科書)分析

塩沢 一平 教授

しおざわ いっぺい

担当科目 古典文学演習ⅠA・B

①東京大学大学院 人文社会系研究科 日本文化専攻日本文学専修 博士課程修了、博士(文学)(東京大学) ②古代和歌・歌謡論、歌謡曲・J-POP論(ダブルメジャーとして、高等教育研究) ③万葉宮廷歌人歌の創造・享受・継承に関する研究。この研究を援用した現代歌謡・J-POP研究。(ダブルメジャーとして、文学教育・研究のレリバンス研究)

島田 泰子 教授

しまだ やすこ

担当科目 日本語学演習ⅡA・B

①奈良女子大学大学院人間文化研究科博士課程比較文化学専攻単位取得満期退学、博士(文学)(奈良女子大学) ②日本語学(歴史的変遷の解明、分野融合的研究) ③言語変化とその兆候・歴史的位置付け等に関する分析、語構成論(接尾語研究)

妹尾 好信 教授

せのお よしのぶ

担当科目 古典文学講義ⅣA・B

①広島大学大学院文学研究科国語学国文学専攻博士課程後期中途退学 ②平安朝文学 ③平安時代に成立した物語(特に『伊勢物語』を中心とした歌物語)や私家集の読解研究

五月女 肇志 教授

そうとめ ただし

担当科目 古典文学演習ⅦA・B

①東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了、博士(文学)(東京大学) ②中世和歌文学 ③藤原定家・源俊賴等の中世歌人による『万葉集』・王朝物語の享受の問題。古典作品の本文異同から見出される諸問題の分析

瀧田 浩 教授

たきた ひろし

担当科目 近代文学演習ⅡA・B

①立教大学大学院文学研究科日本文学専攻博士課程後期単位取得満期退学 ②日本近代文学、文化研究 ③武者小路実篤が主要研究対象であるが、高度経済成長期下の文化にも目を向けている。

中谷 いずみ 教授

なかや いずみ

担当科目 2024年度は担当せず

①日本大学大学院文学研究科博士課程後期国文学専攻修了、博士(文学) ②日本近代文学・文化 ③ジェンダー・セクシュアリティとメディア表象、暴力／抵抗の歴史と文化運動、戦争をめぐる集合的記憶と文学・文化

原 由来恵 教授

はら ゆきえ

担当科目 古典文学演習ⅤA・B

①二松学舎大学大学院博士課程後期修了、博士(文学)(二松学舎大学) ②平安朝散文学、伝承論 ③今まで解析されずにきた『枕草子』地名類聚章段の解釈から、作者清少納言の執筆意識と作品の文学性を抽出し、作品の解明を目指している。

森野 崇 教授

もりの たかき

担当科目 日本語学講義ⅡA・B

①早稲田大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学 ②日本語文法史(特に助詞、助動詞の通時的研究) ③係り結びの構造や、係り結びを引き起こす係助詞について、捉えなおしている。また、助詞と待遇表現との関わりにも関心をもつ。

吉丸 雄哉 教授

よしまる かつや

担当科目 古典文学講義ⅩA・B

①東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得満期退学、博士(文学)(東京大学) ②日本近世文学、忍者忍術学 ③江戸時代後期の大衆向け娯楽小説である戯作の研究。江戸時代から現代に至るまでの虚構の忍者像の形成と変遷の研究。

講師(2024年度)

小森 正明

保戸塚 朗

湯浅 佳子

※2024年度の担当教員・担当科目等一覧です。2025年度以降は変更となる場合があります。

①最終学歴 ②専門分野 ③最近の研究課題

中国学専攻

伊藤 晋太郎 教授／専攻主任

いとう しんたろう

担 当 科 目 中国文学演習②A・B

①慶応義塾大学大学院文学研究科中国文学専攻後期博士課程単位取得満期退学、博士(文学)(早稲田大学) ②三国志・中国古典通俗文学 ③三国時代の武将でありながら、後代に神として崇拜されることになった関羽について、文学的方面、歴史的方面、宗教的方面から研究している。

王 宝平 教授

おう ほうへい

担 当 科 目 日中比較文化学特殊講義②A・B

①北京外国語学院北京日本学研究中心言語文学研究科修了、博士(文学)(関西大学) ②日中文化交流史 ③(1)大河内文書をはじめとした筆談資料の整理と研究、(2)近代日中文化交流史。

田中 正樹 教授

たなか まさき

担 当 科 目 中国思想演習②A・B

①東北大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学、博士(文学)(東北大学) ②宋代士大夫の学術、近代の漢学 ③(1)北宋期の思想(三蘇・蘇門六君子)(2)南宋の学術筆記(洪邁等)(3)中国美学(風景認識)(4)山田方谷・三島中洲の思想

橋本 秀美 教授

はしもと ひでみ

担 当 科 目 東アジア漢字文化圏比較特殊講義①A・B

①北京大学中文系古典文献専攻博士課程修了、文学博士 ②中国古典文献学・学術史 ③鄭玄の經典注の読解を進めています。現代の常識は宋清実学を基礎とするため、漢唐経学を理解するには、常識を批判的に反省し、漢唐の思考を虚心に探る作業が必要です。

福島 一浩 教授

ふくしま かずひろ

担 当 科 目 書道演習IA・B／書道演習①A・B

①明治大学商学部商学科 ②日本書道史、書道実技(かな)、書写教育、古筆研究 ③佐理、光悦、良寛の書状や、平安かな古筆における文字群の成立過程、時間性、空間の研究と抽出した仮名美と現代美を融合し、俳句文学による書を創造。

牧角 悦子 教授

まきずみ えつこ

担 当 科 目 中国文学講義②A・B

①九州大学大学院文学研究科中国文学専攻博士後期課程中退、博士(文学)(京都大学) ②中国古典詩・漢魏六朝文学論、聞一多研究、中国近代学術 ③中国の古代文学。詩経・楚辞を中心にその成立と解釈、及び近代における古代学の成立。中国詩歌の歴史の変遷を、歌と詩という視点から再構築すること。

町 泉寿郎 教授

まち せんじゅうろう

担 当 科 目 日本漢学講義②A・B

①二松学舎大学大学院文学研究科中国文学専攻博士後期課程修了、博士(文学)(二松学舎大学) ②日本漢文学(15～19世紀日本の学芸史一偏学と医学を中心に) ③(1)室町時代～江戸初期における新注学、(2)漢方医学史、特に医学館等における考証学、(3)近代化過程における漢学・漢文・漢学、(4)岡山の漢学、(5)渋沢栄一

小方 伴子 特任教授

おがた ともこ

担 当 科 目 中国語学演習②A・B

①東京都立大学大学院人文科学研究科中国文学専攻博士課程修了、博士(文学)(東京都立大学) ②中国語学(古典)、『国語』研究 ③(1)清朝及び江戸時代に於ける『国語』の伝承、校勘、注釈に関する研究、(2)『国語』及び『国語』韋昭注の語法研究

関 俊史 専任講師

せき としふみ

担 当 科 目 中国文学特殊講義②A・B

①早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士(文学)(早稲田大学) ②中国書学・書道史、書道実技 ③中国において書がいかに価値づけられ、価値を持つに至ったかを思想的・時代的要請、書論の内的な理論構築の過程を分析することで考究している。

和久 希 専任講師

わくのぞみ

担 当 科 目 中国思想講義②A・B

①筑波大学大学院一貫制博士課程人文社会科学研究科哲学・思想専攻修了、博士(文学)(筑波大学) ②中国哲学、形而上学、中国古典文学 ③魏晉玄学とその展開相としての玄言詩について

講 師 (2024年度)

中根 公雄

中村 聡

樋口 咲子

国文学専攻

博士前期課程

国文学講座

古典文学講義ⅣA・B
 古典文学講義ⅩA・B
 近代文学講義ⅠA・B
 文芸理論講義ⅠA・B
 国語科教育学
 古典文学と国語教育
 古典文学演習ⅠA・B
 古典文学演習ⅤA・B
 古典文学演習ⅦA・B
 近代文学演習ⅡA・B
 近代文学演習ⅢA・B
 文芸理論演習ⅡA・B

日本語学講座

日本語学講義ⅡA・B
 日本語学講義ⅣA・B
 日本語学演習ⅡA・B

総合文化学講座

日本文化学講義ⅠA・B
 古文書学講義ⅠA・B
 書道演習ⅠA・B

博士後期課程

古典文学特殊講義ⅨA・B
 古典文学特殊講義ⅩA・B
 近代文学特殊講義ⅠA・B
 古典文学特殊演習ⅠA・B
 古典文学特殊演習ⅤA・B
 近代文学特殊演習ⅠA・B
 近代文学特殊演習ⅡA・B
 日本語学特殊講義ⅢA・B
 日本語学特殊演習ⅡA・B
 日本文化学特殊講義ⅠA・B

修士論文

2023年度 修士論文題目

日本語と中国語における依頼と受諾および拒絶の表現に関する研究
 『銀河鉄道の夜』における「蠟の火」の必要性 — 「よだかの星」と「蠟の火」の仏教観比較を中心に —
 『源氏物語』『紫のゆかり』の研究
 古代・中世における形態異常児の研究
 角田光代『紙の月』論
 三島由紀夫論 — 自由と回帰 —

2022年度 修士論文題目

『満韓ところどころ』における「満」と「韓」の表記について
 『モノノケ』の語義・表記の変遷
 壺井栄研究 — 『十五夜の月』論 —
 『斜陽』における人物像
 越境する『和食』イメージ 中国人における『孤独のグルメ』受容を考察の起点として
 川上未映子作品における痛みの身体感覚
 西尾維新「クビキリサイクル」論 — 「つながり」の補完と「決断」への移行 —
 武者小路実篤『ある青年の夢』の中国における影響 — 魯迅と孫俚工を中心に —

2021年度 修士論文題目

村上春樹「ノルウェイの森」及び「納屋を焼く」の比較研究 — 映画と小説テキストをめぐって
 谷崎潤一郎と「夢判断」 — 谷崎文学におけるフロイトの受容
 夏目漱石と魯迅 — 『それから』と『傷逝』を中心に
 桐野夏生『OUT』における女性たちの境遇
 太宰治「人間失格」の小説と映画 — 原作小説の映画化作品はどのように受容されるのか
 植民地期台湾における日本語台湾方言の研究 — 国民学校国語教科書からの影響を中心とした検討 —
 接尾辞(コ)〈ボ〉類とその周辺
 澁澤龍彦と唐十郎 — 「犬狼都市(キュノポリス)」と「盲導犬」『唐版：犬狼都市』の比較を中心に
 林語堂(Moment in Peking)と日本語訳『北京の日』の比較研究
 日中二次元文化から見る新語・流行語の発展
 古代日本人の嗅覚 — その感性と表現の展開 —

2020年度 修士論文題目

万葉集における雨表現
 琵琶と文学 — 中世楽書・軍記・平曲を中心に —
 イチゼロ時代ライトノベルの物語構造 — 「デート・ア・ライブ」シリーズにおける「セカイ系」と「ハーレム系」の融合
 天平宝字二年二月宴席歌論 — 「移ろひ」と「永続性」 —
 戦後文学として見る『明治開化安吾捕物帖』 — 「考える」姿勢 —

博士論文

年度	博士論文題目一覧
2023	日中探偵小説の相互交流に関する研究
2023	上代文学における多元的世界観の研究
2022	アジア太平洋戦争後の＜私小説＞の研究：文学場の変容と拡張
2022	成語と諺の日中対照研究 — 植物を使う事例を中心に
2020	中世前期説話文学の研究

文学研究科の
シラバス詳細は
こちらから検索
できます。



中国学専攻

博士前期課程

中国学講座

中国文学講義②A・B
中国思想講義②A・B
中国文学演習②A・B
中国思想演習②A・B
中国語学演習②A・B

日本漢学講座

日本漢学講義②A・B
漢文学(文学)と国語教育
漢文学(思想)と国語教育
日本漢学演習①A・B

総合文化学講座

中国文化学特殊講義②A・B
日中比較文化学特殊講義②A・B
東アジア漢字文化圏比較特殊講義①A・B
日本語学講義A・B
書道教育学
書道演習①A・B

博士後期課程

中国文学特殊研究②A・B
中国思想特殊研究①A・B
中国思想特別演習③A・B
中国語学特別演習③A・B
日本漢学特殊研究④A・B
中国文化学特別演習②A・B
日中比較文化学特別演習①A・B

修士論文

2023年度 修士論文題目

『三国志演義』における司馬懿像—人物像から見る作者の正統観—
魏晉南北朝期における范蠡像の受容
漢方復興運動の変遷と歴史的意義 新妻荘五郎、南拝山、矢数道明らを一例として

2022年度 修士論文題目

『財政四綱』銭恂自序における中体西用について
清代の文言小説における関羽—『聊齋志異』『子不語』『続子不語』『閑微草堂筆記』を中心に—
日本亡命期における郭沫若に関する一研究——人とのつながりを中心に——

2021年度 修士論文題目

李滉 退溪 理気論の研究—中国朱子学から朝鮮朱子学へ
「本朝無題詩」における白楽天の諷諭詩の受容について
金庸小説における女性観の変遷について
北宋士大夫における「性」説論議の場の共有と分化—王安石「性」論と道学—
『聊齋志異』の恋愛物語—「才子佳人小説」の系譜として—
中国史書日本関係記事の集録に関する書誌学的考察—江戸時代を中心に—
中国宋代知識人が形象化する人生像—朱熹『小学』をてがかりに—
張衡「應間」の典故表現

2020年度 修士論文題目

『莊子』郭象注の研究—真実の世界をつかむ論理—
唐宋期の文人における古代文字意識の研究
高郵王氏校勘学研究—王引之『経義述聞』を中心に—
『撫松餘韻』をめぐる安川敬一郎諸思想の再検討—中日論語に関する講義書における各視座の変容

博士論文

年度	博士論文題目一覧
2023	李文権研究—対日活動を中心に—
2023	末松謙澄の漢学に関する基礎的研究—その漢詩及び人文学研究
2022	近代日中における『紅樓夢』評論の成立——小説観の変遷を中心に——
2022	于右任「標準草書」研究—中国近代の文字改革との関係を中心に—
2022	明代会同館の基礎的研究
2021	植民地台湾・朝鮮漢文教育形成過程の研究
2020	近世易学研究—江戸時代の易占—

文学研究科の
シラバス詳細は
こちらから検索
できます。



募集定員

課 程	専 攻	
博士前期課程	国文学専攻	16名
	中国学専攻	16名
博士後期課程	国文学専攻	5名
	中国学専攻	5名

試験日程等

秋季試験	
願 書 受 付 期 間	2024年9月11日(水)～9月24日(火) 締切日消印有効
試 験 日	筆記試験 2024年10月5日(土)※ 面接試験 2024年10月6日(日)※
合 格 発 表	2024年10月18日(金)
入学手続締切日	2024年10月30日(水) 締切日消印有効
春季試験	
願 書 受 付 期 間	2025年1月14日(火)～2月7日(金) 締切日消印有効
試 験 日	筆記試験 2025年2月21日(金)※ 面接試験 2025年2月22日(土)※
合 格 発 表	2025年3月3日(月)
入学手続締切日	2025年3月10日(月) 締切日消印有効

※出願者数により、筆記試験と面接試験を同日に実施する場合があります。

試験科目等

博士前期課程	
【国文学専攻】	
試験種別	試験科目
一般入試※1	○専門科目(90分) ○英語・中国語・古典中国語(漢文)から1科目選択(60分)※2 ○面接試験
社会人入試	○小論文(60分) ○面接試験
外国人留学生入試	○小論文(60分) ○面接試験

【中国学専攻】	
試験種別	試験科目
一般入試※1	○専門科目(90分) ○英語・中国語・古典中国語(漢文)から1科目選択(60分)※2 ○面接試験
社会人入試	○小論文(60分) ○面接試験
外国人留学生入試	○小論文(60分) ○面接試験

※1 博士前期課程一般入試で本学出身者の場合は、試験科目等一部異なります。
詳細は入試までお問い合わせください。

※2 次の外国語能力試験のスコア等が下記基準を超える者については、外国語の試験を免除します。
・TOEFL (iBT) 72点以上
・TOEIC (L&R) 785点以上
・IELTS 5.5以上

学費

博士前期課程				
	入学手続時に 必要な金額	入学後11月27日 までに必要な金額	入学年度に必要な 金額の合計	備 考
入学金	250,000円	—	250,000円	本学出身者は無料
授業料	260,000円	260,000円	520,000円	
施設費	50,000円	50,000円	100,000円	本学出身者は半額
その他	11,430円	—	11,430円	本学出身者は 6,430円
合 計	571,430円	310,000円	881,430円	

※2年次は授業料および施設費と、松苓会(同窓会)終身会費15,000円を徴収します。

※学納金は、入学時と入学後11月の2回に分けて納入。

博士後期課程				
	入学手続時に 必要な金額	入学後11月27日 までに必要な金額	入学年度に必要な 金額の合計	備 考
入学金	250,000円	—	250,000円	本学前期課程修了者 は無料
授業料	260,000円	260,000円	520,000円	奨学生選抜入試にお ける奨学金合格者は 授業料全額免除
施設費	35,000円	35,000円	70,000円	本学前期課程修了者 は30,000円
その他	14,620円	—	14,620円	本学前期課程修了者 は9,620円
合 計	559,620円	295,000円	854,620円	

※2年次以降は授業料および施設費と、3年次に松苓会(同窓会)終身会費15,000円を徴収します。

※学納金は、入学時と入学後11月の2回に分けて納入。

博士後期課程	
博士後期課程に出願する者は、必ず出願期間前に希望する指導教員、研究テーマや内容について事前相談を行ってください。詳細は入試要項を確認してください。	
【国文学専攻】	
試験種別	試験科目
一般 (奨学生選抜付) 入試	○専門科目(90分) ○面接試験
外国人留学生 入試	○小論文(60分) ○面接試験

【中国学専攻】	
試験種別	試験科目
奨学生選抜入試	○専門科目(90分) ○英語・中国語・古典中国語(漢文)から1科目選択(60分)※2 ○面接試験
一般入試	○英語・中国語・古典中国語(漢文)から1科目選択(60分)※2 ○面接試験
外国人留学生 入試	○小論文(60分) ○面接試験

2024年度 入試結果

課 程	試験種別	専 攻	秋季試験		春季試験		合 計	
			志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
博士 前期課程 (修士課程)	一般入試	国文学専攻	2	2	1	1	3	3
		中国学専攻	3	3	1	0	4	3
	社会人入試	国文学専攻	0	0	0	0	0	0
		中国学専攻	1	1	0	0	1	1
	外国人 留学生入試	国文学専攻	4	2	6	2	10	4
		中国学専攻	4	1	10	5	14	6
	合 計	国文学専攻	6	4	7	3	13	7
		中国学専攻	8	5	11	5	19	10
博士 後期課程 (博士課程)	奨学生 選抜	国文学専攻	-	-	-	-	-	-
		中国学専攻	2	2	2	1	4	3
	一般入試 ※国文学専攻は 奨学生選抜付	国文学専攻	0	0	1	0	1	0
		中国学専攻	1	1	1	1	2	2
	外国人 留学生入試	国文学専攻	0	0	0	0	0	0
		中国学専攻	2	2	4	2	6	4
	合 計	国文学専攻	0	0	1	0	1	0
		中国学専攻	5	5	7	4	12	9

(注) 奨学生選抜入試では、奨学金合格者のほか、通常合格枠もあります。

TOPICS

研究活動支援奨学制度について

文学研究科における有為な研究者育成に資することを目的に、以下の通り、所属学生への研究活動の支援制度を設けています。

- 学会参加交通費支援
- 論文掲載料・投稿料支援
- 画像・図版引用料支援
- 博士論文 出版支援

多様な教育・研究制度

◎委託研修生

公的な機関・団体または外国政府等から、本学大学院の授業科目の履修および研究指導の委託があった場合、委託研修生として受け入れています。

◎研究生

大学学部卒業者以上を対象とした研究制度です。特定の専門事項について研究を志願する方を選考のうえ研究生として受け入れ、研究指導を行います。

◎科目等履修生

科目等履修生とは、一般社会人等に対してパートタイムによる学習機会を拡充し、その成果に適切な評価を与える(単位認定すること)を目的として設けられた制度です。本大学院でも1科目または複数の授業科目の履修を希望する方を、科目等履修生として積極的に受け入れています。履修期間は原則として1年間になります。

学会および定期刊行物について

大学院紀要『二松』

大学院文学研究科の関係者(教員、助手、学生等)による研究成果の発表を目的とする論文集です。



二松学舎大学人文学会

二松学舎大学人文学会は、教員・同窓生・学生を中心とした研究機関です。国語国文学・中国学および一般人文科学に関する研究と会員相互の親睦を図る目的で組織されました。講演会と春秋2回の定期研究発表会、機関誌『人文論叢』の発行を行っています。



九段キャンパス

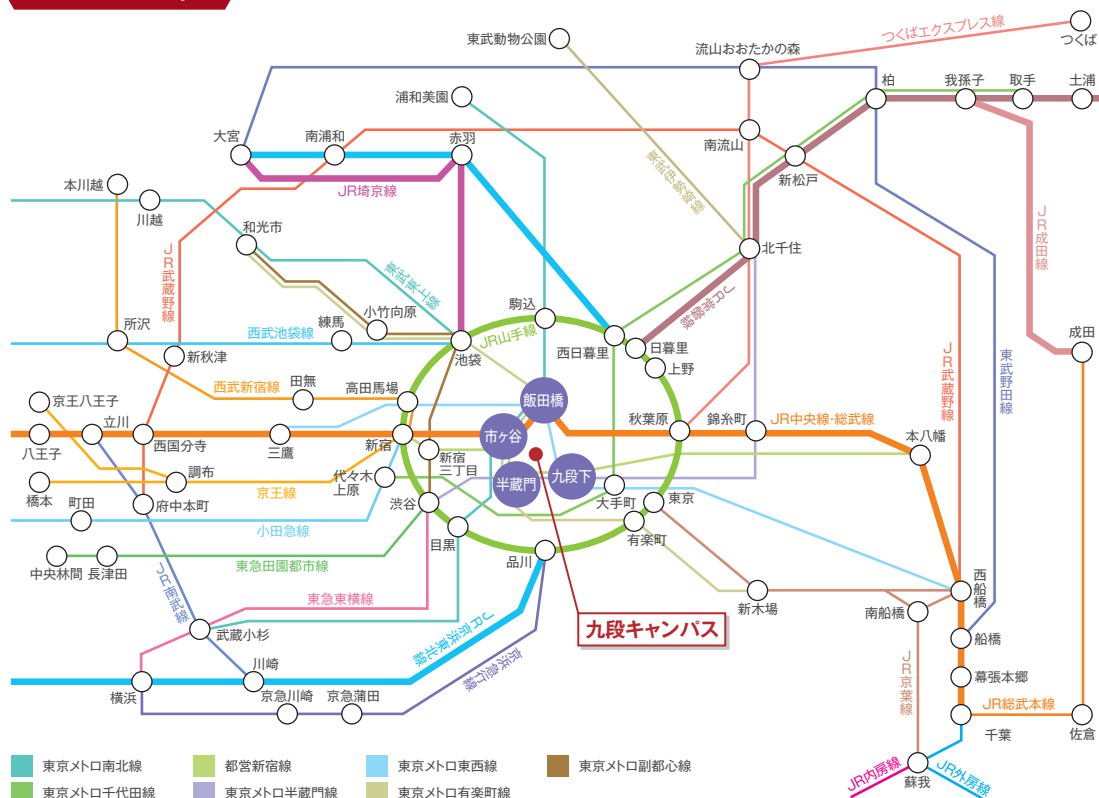
アクセスに優れた文化・経済の中心地で。

東京の中心、千代田区三番町に位置するキャンパスは、新宿・大手町・渋谷・池袋などの主要駅に30分以内でアクセスできる環境にあるため、貴重な時間を有効に活用できます。



- 東京メトロ東西線・半蔵門線・都営新宿線「九段下」駅下車、2番出口より徒歩8分
- JR線・東京メトロ有楽町線・東西線・南北線「飯田橋」駅下車、西口より徒歩15分
- JR線・東京メトロ有楽町線・南北線・都営新宿線「市ヶ谷」駅下車、徒歩15分
- 東京メトロ半蔵門線「半蔵門」駅下車、5番出口より徒歩10分

Access Map



公式SNSで最新情報をチェック!

受験生サイト



公式 LINE



公式 Instagram



二松学舎大学

大学院／文学研究科

お問い合わせ 入試課

〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16
TEL.03-3261-7423 FAX.03-3261-8904
E-mail: nyushik@nishogakusha-u.ac.jp

ホームページ <https://www.nishogakusha-u.ac.jp/admission/>

